

2026年度－2030年度

第6次

中期5カ年 経営実行計画

概要

V-ACTION *for the Future*

～心と技を磨き いのちと社会に輝きを～

15th 

荒川化学工業株式会社
ARAKAWA CHEMICAL INDUSTRIES, LTD.

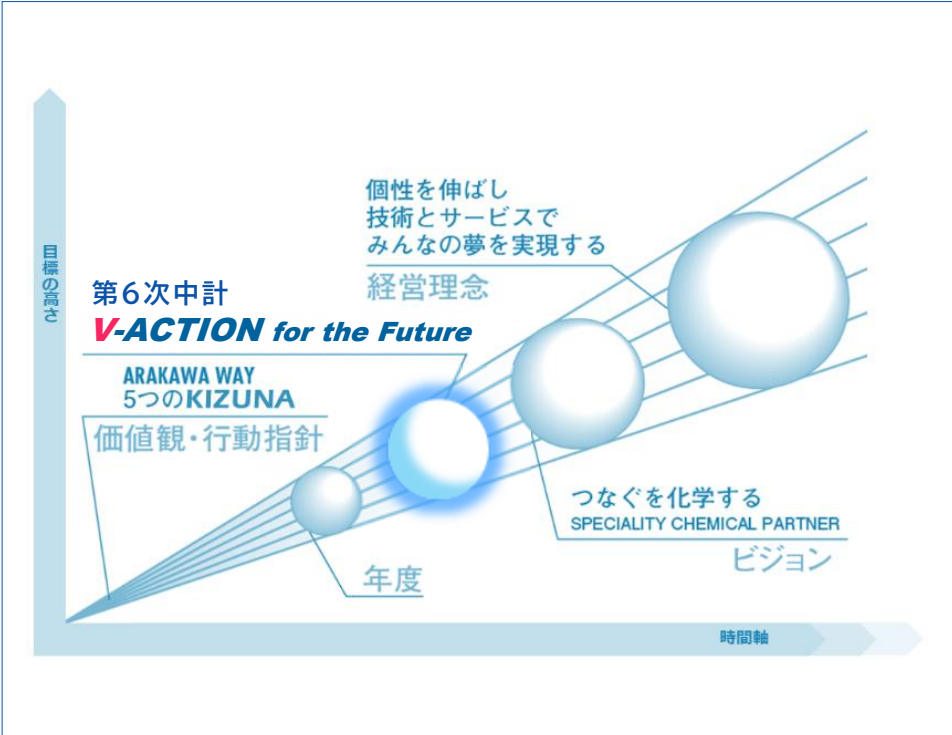
2030年のありたい姿	P.3
中計概要(まとめ)	P.4
重要課題(マテリアリティ)とKIZUNA 指標	P.5
中核方針	P.6
定量目標	P.7
事業ポートフォリオと主な施策(事業戦略)	P.8
キャッシュアロケーション(5年累計)	P.9
株主還元方針(第6次中計期間)	P.10

2030年のありたい姿

当社は2026年11月に創業150周年を迎えます。

この節目に新たなスローガンを掲げ、ありたい姿の実現を目指します。

経営理念 体系図



V-ACTION for the Future

～心と技を磨き いのちと社会に輝きを～



2030年のありたい姿

ロジンをはじめとする天然素材を活かし、「つなぐ」技術の深化と新たな付加価値の創造に挑戦し続けることで、地球環境と社会の持続可能な未来に貢献する。

中計スローガンに込めた想い

第5次中計で掲げた「V-ACTION」の「5つのV」を継承し、未来に向けて価値創造に挑戦し続ける強い意志を表しています。

社員一人ひとりの意識やマインド(心)と、技術やビジネスモデル(技)を磨き上げ、当社グループの幅広い事業を通じ、より豊かで輝かしい未来社会の実現に貢献していく想いを込めております。

方向性(中核方針)

「2030年のありたい姿」の実現に向けて、**事業ポートフォリオ改革を加速**し、キャッシュ創出力の強化を**変革の軸**として**生産性・資本効率の向上**を図り、中長期的な企業価値の最大化につなげていく。

アクション(施策)

成長・注力領域での事業拡大と、**構造改革(各事業の磨き直し)**で、営業利益70億円(2025年度業績予想比+150%)の達成を目指す。

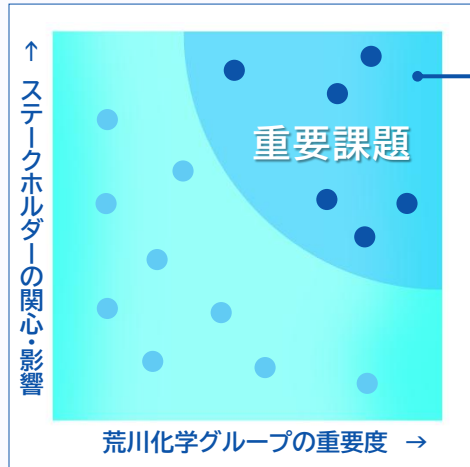
定量目標(2030年度)

事業の成長			資本効率の追求		株主還元の拡充 ※
連結売上高	連結営業利益	純利益	ROE	ROIC	配当性向
1,030億円	70億円	44億円	7%以上	5%以上	50%

※第6次中計期間中の配当については原則的に**累進配当**とし、積極的な還元を推進する。

重要課題(マテリアリティ)とKIZUNA 指標

中長期的な企業価値向上に向け、重要課題を再編成し、
経営環境の変化への対応力と施策の実効性を高めるため、KIZUNA 指標に紐づけて取り組む。



マテリアリティのイメージ

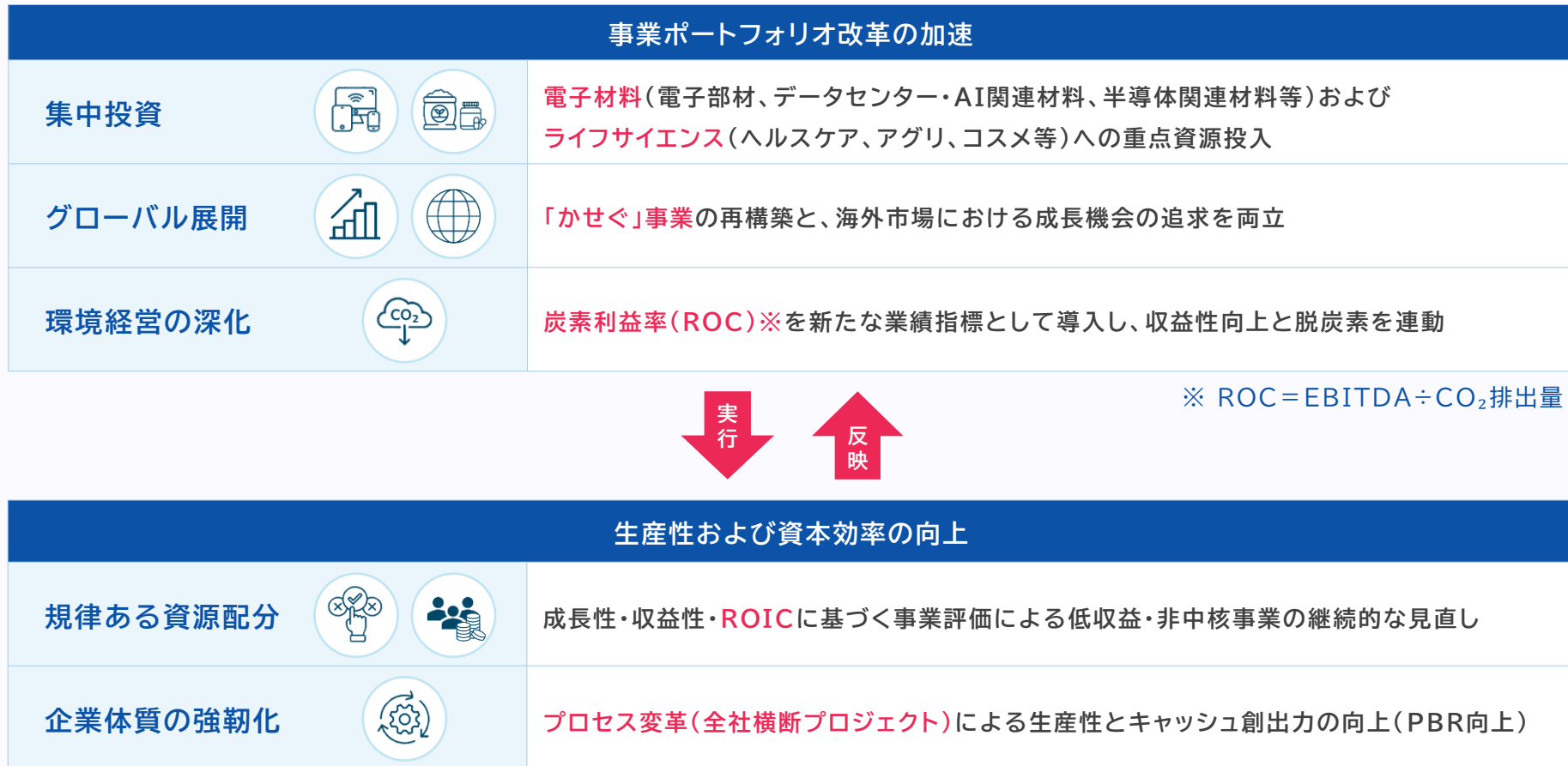
重要課題(6つの取り組み)		対応するKPI KIZUNA 指標(独自指標)	対応する ESG	対応する SDGs
価値創造に 直結する マテリアリティ	事業ポートフォリオ改革の加速	<ul style="list-style-type: none"> 投下資本利益率(ROIC) 炭素利益率(ROC) CCC短縮日数指数 ※1 	G	
	資本効率および生産性の向上			
	グローバル競争力の強化	<ul style="list-style-type: none"> 海外売上成長率 	E S	
実行を支える 基盤 マテリアリティ	安全・品質・コンプライアンスの徹底	<ul style="list-style-type: none"> 重大事故・重大インシデントゼロ 	G	
	人財・実行力の強化	<ul style="list-style-type: none"> 一人当たりの付加価値 イキイキ指数(エンゲージメント) ※2 	S	
	環境・資源循環への対応	<ul style="list-style-type: none"> サステナビリティ製品売上成長率 CO₂排出量の削減 	E G	

※1 CCC・・・キャッシュ・コンバージョン・サイクル。棚卸資産回転日数+売上債権回転日数-仕入債務回転日数

※2 イキイキ指数(エンゲージメント)以外のKPIについては全て連結ベースの数値を予定しています。

中核方針

事業ポートフォリオ改革を加速し、キャッシュ創出力の強化を通じて生産性および資本効率を向上させ、創出した経営資源を研究開発や人財等へ再配分し、中長期的な企業価値の最大化を目指す。



キャッシュ創出を改革の軸に据え、成長・効率・還元の好循環を確立し、持続的な成長を実現する。
第6次中計期間においては、通過点としてROE7%、ROIC5%の達成を目指す。

	第5次中計	第6次中計	
	2025年度 業績予想	2028年度 (3年目)	2030年度 (最終年度)
連結売上高	850億円	930億円	1,030億円
連結営業利益	28億円	50億円	70億円
EBITDA	83億円	92億円	105億円
純利益	18億円	30億円	44億円
ROE	3.0%	5%以上	7%以上
ROIC ※	2.3%	3.5%以上	5%以上

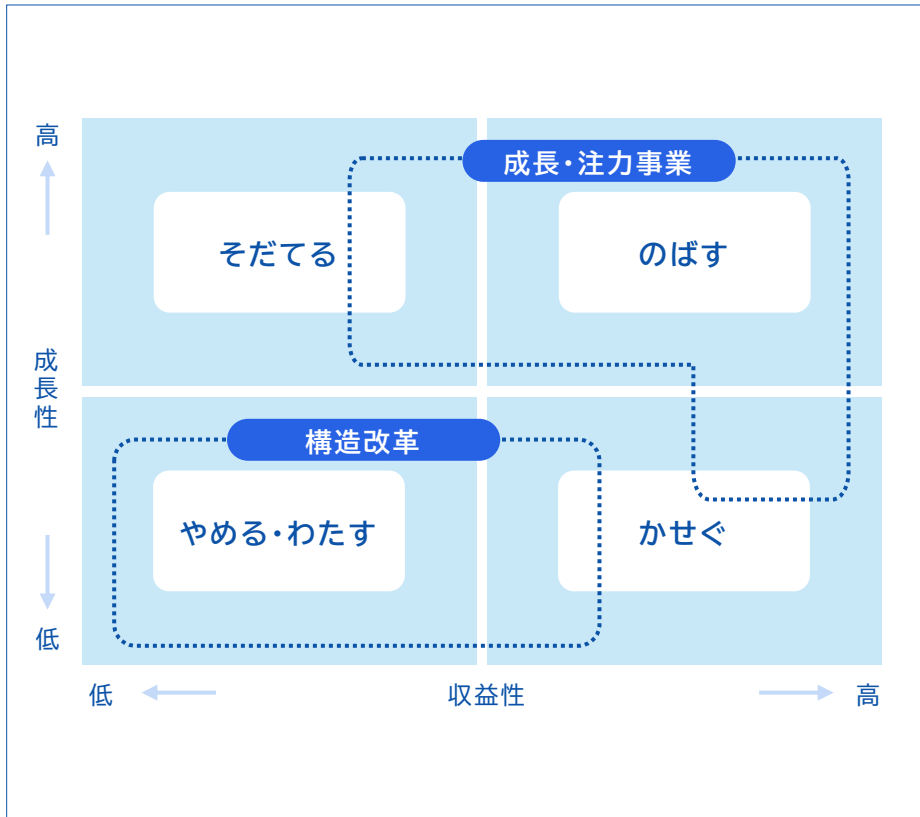
+150%

※ 税率は簡便的にいずれの年度も30%として試算しています。
当社の資本コスト(WACC)は4%前半で推移しており、金利上昇や有利子負債削減により2030年には5%程度になると推定しています。









事業ポートフォリオと主な施策(事業戦略)

成長・注力領域での事業の拡大と、構造改革(各事業の磨き直し)により、
営業利益70億円(2025年度業績予想比+150%)の達成を目指す。

事業ポートフォリオ



主な施策

成長・注力事業		増益額20億円以上
	<ul style="list-style-type: none"> 電子部材 データセンター・AI関連材料 半導体関連材料等 	電子材料領域の事業拡大 (増益額+12億円以上)
	<ul style="list-style-type: none"> ヘルスケア アグリ コスメ等 	ライフサイエンス領域の事業化加速と収益貢献化 (増益額+3億円以上、現状△1億円→2億円)
  	<ul style="list-style-type: none"> 板紙用紙力増強剤 水素化石油樹脂 ロジン系樹脂等 	海外市場における成長機会の追求 (増益額+5億円以上)
構造改革		増益額20億円以上
 	<ul style="list-style-type: none"> 水素化石油樹脂 製紙用薬品 	再構築対象事業の生産プロセス変革等 抜本的な収益性向上
	<ul style="list-style-type: none"> 低収益、非中核事業 	キャッシュ創出力の強化を軸にした オペレーションプロセス変革と間接業務の生産性向上

キャッシュアロケーション(5年累計)

第5次中計では将来需要に備えて生産能力を増強、
本中計では投資を成果につなげ、『次の柱』育成とキャッシュ創出強化へ。

CASH(億円)		第5次 実績見込	第6次 計画
IN	営業CF	150	340
	投資CF 資産売却等	60	20
	財務CF 資金調達	190	—
	合計	400	360
OUT	定常投資	165	165
	成長投資	150	55
	株主還元	48	78
	有利子負債 返済	—	35
	その他	37	27

表中の数値は概数として記載しています。

営業CFの主な増減要因

- ・営業利益増加 240億円
- ・運転資金増加 △80億円
- ・資本効率改善によるキャッシュ創出 30億円

成長投資の主な内容

- 5次 将来需要に備えた生産能力の先行増強**
- ・電子材料関連 55億円
 - ・水素化石油樹脂 47億円
 - ・紙力増強剤(グローバル展開) 22億円
 - ・新規事業開発(微細藻、ライフサイエンス) 14億円

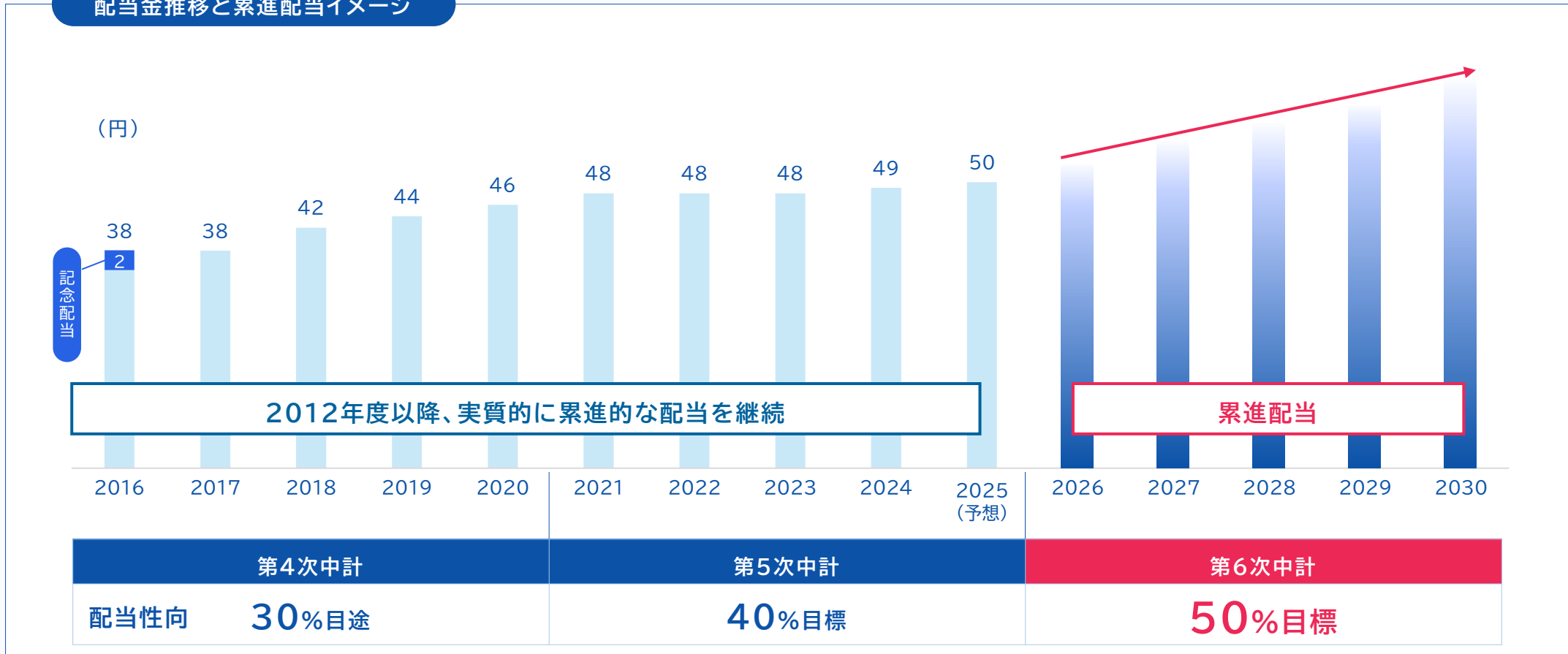
6次 『次の柱』を育てるための重点投資

- ・生産能力増強投資(グローバル展開) 35億円
- ・成長・注力分野への戦略投資(M&A含) 20億円

株主還元方針(第6次中計期間)

資本効率とキャッシュ創出力を高める目標と連動し、第6次中計期間中の配当については、原則的に累進配当とし、配当性向目標については50%に引き上げ、積極的な還元を推進。

配当金推移と累進配当イメージ





見通しに関する注意事項

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、
記載された将来計画数値、施策の実現を確約したり、保証したりするものではありません。